地方小都市を対象とした街歩きの文脈分析とその調査手法の試論

2024.12.14-15 第20回景観・デザイン研究発表会

国立研究開発法人 土木研究所
寒地土木研究所 地域景観チーム
岩田 圭佑　福島 宏文

■地方小都市の歩行空間 -現状と課題-

多くの人が**移動を自動車に依存**し、街なかを歩きたくなる**魅力も不足**している地方小都市では、自動車でのアクセスを前提としつつ、「道の駅」や地域拠点施設、公共施設などに見られる**局所的な人の賑わいを周辺に波及させていく**空間の実現が重要では？

本研究における地方小都市＝人口1万人前後を対象

北海道における人口1万人未満の市町村は、179市町村のうち125（全体の約7割）。

利用者のいない街路の歩行空間と、休憩施設等

研究の目的

街の来訪拠点からの街歩き（回遊）意欲を促す計画・設計に資することを目的に、**著者自身が街歩き調査を実施。空間の魅力やそこでの交流が、街歩きの文脈（街歩き体験の豊かさを成す前後関係）をどのように形成するのかを把握し、その調査手法を検討する。**

1. **街歩きの空間と行動の関係を分析し、文脈形成の要因を考察する**
2. **街歩きの文脈調査における着眼点や評価軸について考察する**

→道路空間の環境や人を介した情報取得の場（コミュニケーションの場）の機能に着目し、街歩きの文脈形成に寄与する空間のあり方、およびその調査手法について考察する。

山形県金山町の街並み。
将来的な景観の継承に課題もある。

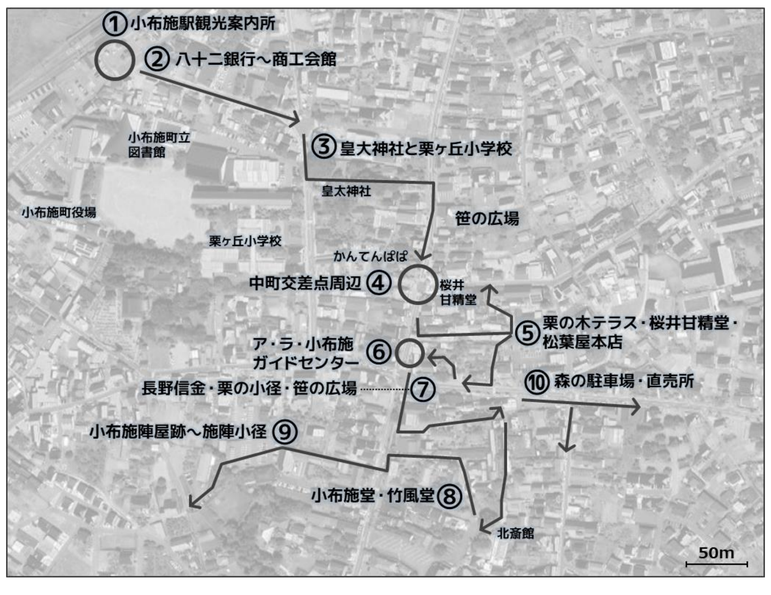
調査　小布施町の街歩き調査

2024年8月24日（金）10:00-15:00

- **著者の実際の街歩きから、一連の出来事や気づき、空間の関係性を抽出するという試行的な調査を実施。**
- **空間の魅力に加えて人との交流などの情報取得が、街歩きの体験をより豊かにすることが示唆された。**

●長野電鉄の小布施駅を発着点として市街地中心部を訪問

- 南北に国道403号が通り、その東西に中心市街地が広がっている。
- 国道西側は主に小学校や役場などの公共施設が立地し、国道東側に観光エリアを形成する商業施設や歴史文化施設が立地。
- 来訪者の拠点となる施設や駐車場は、小布施駅、北斎館前の笹の広場周辺の町営・民間駐車場、大日通り沿いの町営駐車場など。



●小布施を対象地とした理由（地方小都市との共通性など）

- 人口約11,000人。果実栽培など自然環境や一次産業を基盤とした産業が来訪者を惹きつけている。大型の宿泊地を有していない。
- オープンガーデンなど、地域の生活に根ざし、地域が参画した景観創出や経済的な観光サービスの提供に取り組んでいる。

●調査の条件

- 初めての小布施訪問であり、土地勘は有していなかった。
- 小布施駅の観光ボランティアによる案内とそこで頂いた地図、ガイドセンタースタッフの情報などに基きその場の判断で決定
- 街歩きの際はスマートフォンの情報を一切取得していない

□ 街歩きの文脈形成における「空間・交流」と「意識・行動」の関係分析

考察1　地域が参画した景観や小径を通じて、小布施の歴史や生活の根元を覗かせてもらうような体験ができた。その要因は何だろうか？

①空間が連担している

- 空間の設えによって、行動のイメージが引き立てられる、あるいは興味や想像をかき立てられ、行動が促された場面。来訪者の心理状態に共鳴し、文脈の中で豊かな風景体験を与えるような空間の設え。このように空間が誰かの一連の行動を促し、空間の要素が意味を持って繋がり合う。そうした状況を「空間の連担」と定義できるのでは。

a) 観光案内所からでたところで、木陰のベンチ。バスを待つこともできる。　b)飲食店の休憩スペース。街の雰囲気を感じながら休めそうで心地よさそうだったので、ここで休憩してみようという気持ちに。　c) 興味をそそられた小学校建築。その前の道路には横断歩道。　d) 飲食店から出てきた客が路地の中に入っていく。何だろうと後をついていくと、厨房の様子を眺めながら駐車場までつながる小径だった。

②地域が参画している

- 地元が参画した空間が、生活を覗くような体験につながる。観光客が訪れるガイドセンターで地元の生活や雰囲気を味わうことができたり。観光を担う場所・人が、地域の生活を盛り上げる場所・人でもある。

a) 地域が主体的にオープンガーデンや生業の可視化に取り組んでおり、そういう空間に誘われる設えになっている。　b) 地域の旬なモノ、旬なイベントを、各店舗が工夫しながら販売・発信しており、そういう空間に誘われる設えになっている。 c) ガイドセンターは地元の人が集うカフェという雰囲気。 d) 歩いて疲れた街歩きの終わりに農産物直売店で絞りたてのリンゴジュースは格別。

③情報交流を促している

- 現地での情報取得をデザインする。直接的な情報取得だけではなく、間接的な情報取得も役に立つ。中間地点が重要。時系列的な体験の深掘りが影響する場面が複数回あった。まちなかの全ての要素が、中間地点になり得る。

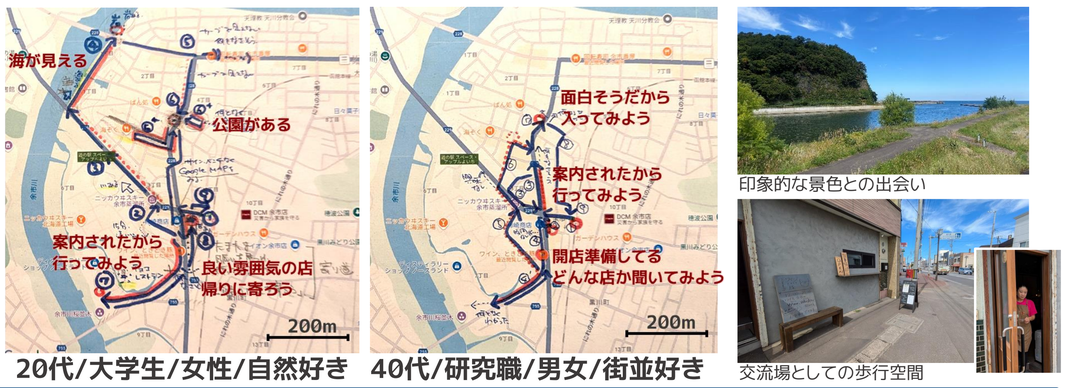
a) 観光案内所では対面で地図を使いながら見どころについて解説をもらい、概ねの目的地や行動範囲を把握できた　b) 通って良い場所、通って欲しい場所について細かく案内がされている。 c) 道路上も、コミュニケーションの場となる。雰囲気に駆り立てられて立ち寄る。　d)「話しかけてもらう」ことを街歩きのコンセプトにしている。

- **空間の連担に加え、地域が参画した空間づくりや情報交流により、街歩きの文脈が豊かになることを確認した**
- **情報交流を促すのは地域の創意工夫と来訪者の主体性。これにより知らないことを知れるのが文脈の豊かさ**

考察2　空間の連担・地域の参画・情報の交流がどのように文脈を形成したのかを可視化し、要因を評価する手法を提案。

□ 街歩きの文脈形成に関する属性比較・文脈の可視化

2024.9月　北海道余市町での街歩き調査より



20代/大学生/女性/自然好き　40代/研究職/男女/街並好き

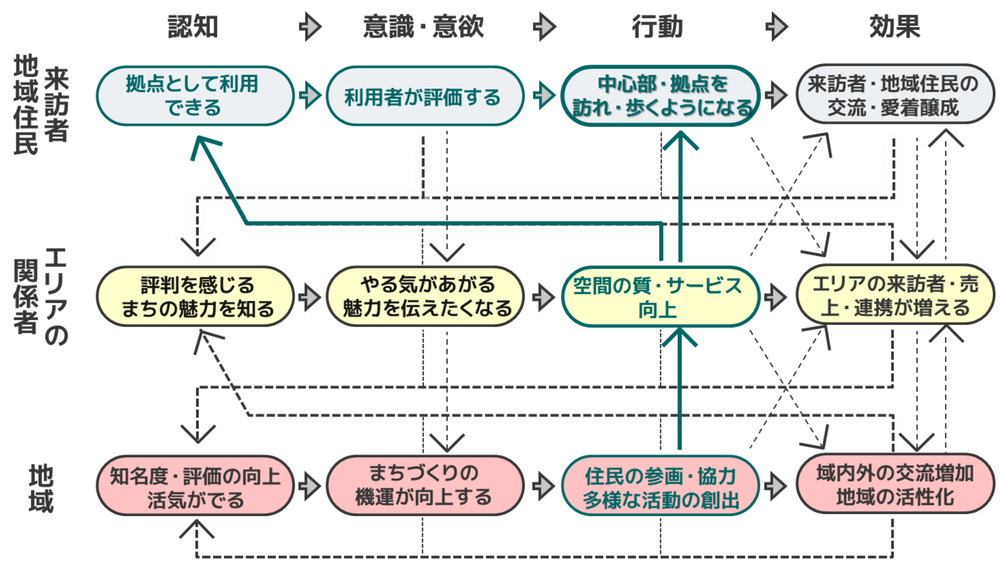
- **行動の目的や範囲、目的地への移動＋αの行動を把握し、属性や地域間で比較**
- **街歩きにより来訪者や地域に生まれた価値、その要因となった空間・交流を把握**

□ 街歩きの文脈調査における着眼点と評価軸

- 来訪者の気づき、感情、面白かったできごと
- 行動の範囲と種類、特に新たに創出された行動
- その要因となった空間や情報取得の状況や出来事、交流など
- 街歩きにおける空間と行動の前後関係、因果関係
- 外から内への情報取得、内から外への情報発信、相互の関係

これらに着目し
空間の連担
地域の参画
情報の交流
の観点から評価

□ 地域を豊かにする街歩きの効果発現プロセス



- **個々の街歩きの文脈が集合体となり、全体で目指す効果発現の循環が生まれる**
- **目指す効果を発現するために必要な取り組みについても把握する必要がある**

まとめ

- **「空間の連担」「地域の参画」「情報の交流」の相互作用が「地域らしい賑わい」につながる**
- **今後、街歩きの文脈形成の可視化、属性や地域間の比較分析を実施予定**

〒062-8602　北海道札幌市豊平区平岸1条3丁目1番34号
TEL:011-590-4044　E-mail:iwata-k@ceri.go.jp